２０１４／０１　ＪＳＣＡ九州２５号

ＪＳＣＡ九州

発行・日本建築構造技術者協会九州支部
事務局：福岡市中央区天神５－５－１９－６
TEL 092-732-1017 / FAX 092-732-1018
Web Site：http://jscakyushu.jp/

2014年巻頭言

2014 年新年のご挨拶

2014 年 1 月　　JSCA 九州支部長　宮田　俊英

新年あけましておめでとうございます。
昨年来、福岡県の構造計算適合性判定機関複数化の要望に、株式会社建築構造センター、九州住宅保証株式会社、ビューロベリタスジャパン株式会社の３社の応募が有り、その中から九州住宅保証株式会社が候補者として選定されて、4 月から運用が開始される予定です。複数化に対し各方面の方々から応援頂きお礼申し上げます。
昨年の持ち回り役員会は、北九州市で行われ小倉祇園太鼓等、高嶌地区幹事を始め北九州地区会の皆様と楽しい時間を共有出来ました。
昨年から職人不足、材料費等の高騰など、入札でも不調が目立っています。「アベノミクス」による景気回復は未だ実感するには至りませんが、大企業の業績を見るとかなり上がっているようです。４月からの給料アップも期待されていますが、我々、零細企業にはまだまだのようです。一方、４月には消費税が８％に上がり景気の腰折れ感も懸念されておりますが、大部分のエコノミストは楽観的なようです。
昨年の１１月２５日に改正「耐震改修促進法」が施工されました。旅館、病院等の不特定多数の利用する一定規模以上の建物、避難路沿道建物等に耐震診断の義務化と、その結果の発表する事と成っています。　この改正に対応する為、一般の方々に対して耐震診断の相談窓口を設置致しました。ＪＳＣＡ本部のホームページにＪＳＣＡ九州支部「耐震改修促進委員会」を登録しています。
また、昨年の総会に於いて承認を頂いた参加型の実験については、テーマが決まりました。初めてのことで、決定に時間が掛りましたが、「鉄骨梁の横補剛について」と言うテーマで、伊藤氏をワーキンググループ長にお願いして、福岡大学の木村教授と共同で行う事に決まりました。今年中には実験まで行いたいと考えています。今からでも参加の希望者があれば連絡頂きたいと思います。
それから今年は、ＪＳＣＡ設立２５周年となっています。九州支部においてもイベントを行います。九州支部第１回役員会を７月に大分で開催し、それに合わせて「九州構造デザイン発表会」、（仮題）「職能を問う　パネルデシュカッション」の開催を予定しています。パネルデシュカッションには、金箱会長の出席を要請し快諾を得ています。会員の皆様も時間を調整の上、御参加頂き、大分で楽しい時間をご一緒できれば嬉しく思います。
皆様のご意見をどしどし頂き、皆で盛り上がる九州支部で有りたいと思います。
最後に今年の皆様の元気とご多幸をお祈りいたします。

新年を迎えて

副支部長　　大塚真裕

新年明けましておめでとうございます。

一昨年の安倍政権発足後、投資回復の兆しが明確となり、また、2020 年東京オリンピック開催が決定したこともあり更に建設需要が高まると思われます。と同時に設計業務量も増大していくと思われますが、しかし、単に設計をこなすだけでは済まなくなります。労務職不足という社会背景があり、特に構造設計においては省力化工法が求められます。今こそ、我々構造技術者協会メンバーが協力してアイデアを出して行く必要があると思います。また、昨年は改正耐震改修促進法が施行され、耐震診断の要請が増大すると思われます。更に社会に認めれれる存在にして行きましょう。

今年度は、支部長の発案でアイデアを募った参加型実験を実施に移す予定です。実験の計画、実施、考察、等を通して基礎知識・技術のレベルアップを図って行きたいと思います。

また、JSCA は 25 周年を迎えます。本部でも行事を考えているようですが、九州支部においても、7 月の役員会に合わせて、支部役員、地区幹事の方々の協力を得てイベントを考えています。皆様方のご協力も宜しくお願い致します。

副支部長　　原　英基

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年 11 月改正耐震改修促進法が施行され、期限を設けて耐震化のスピードを加速させる方向性が示されました。予測される巨大地震に際しての減災がその目的であろうと思います。

毎度の事ながらいささか性急な感がありその運用には不安も残りますが、ＪＳＣＡとしてはこの状況下において構造技術集団としての存在感を十分に発揮することが重要であろうと考えます。

今年 7 月にＪＳＣＡは法人化 25 周年を迎えます。九州では若い会員の皆さんの提案で大分での第 1 回役員会において九州版構造デザイン発表会を実施することが予定されています。各地区一般会員の方々に多数参加いただいて、より広く交流できる場となればと思います。25 周年が活性化の契機になり、ますます九州の一体感が強まることを期待します。

今年もよろしくお願いいたします。

技術委員会

技術委員長

㈱JE 構造設計　　上瀧 邦宏

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年の日本は「震災復興」の合言葉に始まり、「アベノミクス」の３本の矢、「参議院選挙」の自民党の圧勝とその後の堰が切れた国会運営、「東京オリンピック」の決定と、かなり慌ただしい感じを受けた年だった気が致します。足元の九州では確かに仕事は順調になって来ているように見えますが、これまでの低調な景気の元で減少を続けてきた技術者が東北の復興と関東の建築景気により九州から流出した上に資材も値上がりしており、折角の景気に水を差している感が致します。中央の政権が日本の大きな方向を決定するのは良いのですが、それを実現する地方行政による体制の整備も同時して頂きたいものです。

新築工事にその様な不安を抱えつつ、本年は「消費税の値上がり」と「改訂された耐震改修促進法」が本格的にスタートしますが、この件についても地方行政によるその地方に合った体制の整備を期待しつつ、問題を解決していかなければならないと考えております。

今年もみんなで、「良い年」となるように頑張りましょう。

地盤系部会

地盤系部会長

清水建設㈱　　佐守 康司

新年明けましておめでとうございます。本年もＪＳＣＡ会員の皆様にとって良い年でありますよう祈念させていただきます。

昨年はＪＳＣＡ九州支部地盤系部会として 4 回のワーキンググループ勉強会と、講習会を 1 回開催し、活発な部会活動ができたのではないかと考えております。特に昨年 7 月 11 日に天神で開催された「場所打杭の設計・施工についての勉強会」では約 80 名のご参加をいただき、場所打ち杭に関する設計・施工方法や現場監理に関する実務的な勉強会が実施できました。お配りした資料とともに講習内容が参加者の皆様の平素の業務の一助となることを願っております。平成 26 年も地盤系部会として、より実務に即した勉強会を積極的に継続していきたいと考えております。さらには各委員会や部会との交流を深めることによりメンバーの技術力アップを図り切磋琢磨の場として活用していきたいと思っております。

最後にＪＳＣＡ会員の皆様のより一層のご活躍と健康をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

設計規準系部会

設計規準系部会長

吉原建築構造計画　　吉原　浩晃

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。
昨年の部会においては勉強会等の開催も少なく、不本意な一年となってしまいました。
お詫び申し上げます。
さて、今年も、昨年に引き続き建設業界は多少景気が上向き傾向と思われます。その影響か、新規工事において建設業に携わる職人さん等の不足、材料費の高騰により、建設工事の受注にも悪影響が出て来ており、設計者としては痛し痒しですね。
また、耐震改修促進法に施行により、構造設計者として耐震診断の業務も増えることになると思われますので、診断業務を行われている構造設計事務所の方々にとっては仕事量の増になり、良い傾向と思っているのですが、ただ、今回の国土交通省の診断業務の法的基準には疑問があると感じているのは私だけなのでしょうか？
ともあれ、今年は設計部会主催の勉強会等も他の委員会とも連携、協力し、開催したいと考えておりますので、御協力の程よろしく御願い申し上げます。

コンクリート系部会

コンクリート系部会長

㈱大林組　　伊藤　義弘

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、長らく停滞が続いた国内経済が復活の兆しを見せ、東京オリンピックの開催も決まり、建設業界に対する需要も高まってきた一年となりました。
昨年度のコンクリート系部会の滑動として、特殊（ＰＣ）部会との共催で免震及びＰＳ梁を採用された建物の現場見学会を７月に開催し、Ｈ２６年３月に西日本圧接協同組合と共催で技術交流会を開催する予定にしております。
本年度は、昨年に引き続き他の部会と協力し、会員皆様の構造設計者としての技術力研鑽、スキルアップの場を提供していきたいと考えております。
今後のご要望も含めて、会員皆様のご協力をお願い致します。

鉄骨系部会

鉄骨系部会長

鹿島建設㈱　　尾宮　洋一

新年おめでとうございます。

昨年は１１月に、建築学会の論文賞を受賞された北九大の津田恵吾先生から座屈問題についての講義を開催し、約５０名の出席をみました。引き続き翌週は、福岡市第１給食センターの施工現場にて、柱ＰＨＣ+梁Ｓの混合構造の見学会を行い約２０名の方に参加いただきました。

本年の鉄骨部会の活動は、まず２月に新日鉄住金の協力で「鋼構造に関する最新の動向」と題して、講習会を開催します。我々構造設計者にとって鋼材は設計という料理のネタであるため、最新の情報を入手することは必要不可欠のことと考えます。

新年度に入っては、どこか現場での見学会を模索しています。

鋼構造サブネットワークの協同活動では、九州の建築鉄骨歴史散歩と題し、九州沖縄の特徴ある鋼構造物のマップおよび年表作りを行っています。完成の暁には、楽しい建築鋼構造ガイドブックになればと情報収集中です。会員皆様のご協力宜しくお願いいたします。

鋼構造に関する講習会や見学会に関し、要望や見学受け入れの情報等ありましたら、是非お知らせ下さい。

今後も、座学と現場を組み合わせ、頭と体の両面を使いながら、会員の方々の技術力アップに貢献したいと思います。

木質系部会

木質系部会長

川崎建築構造設計事務所　　川崎　　薫

新年　あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては昨年のアベノミクス効果や、消費税増税前の駆け込み需要かと思われる急激な仕事量の増加で多忙な年末となられたのではないでしょうか。

これはRC造やS造等だけに限らず、木造建物全体の環境も大分変わってきた様に思います。

昨年は低層の公共建築の木造化計画が少しずつ進み始めた様でしたが、今年はより多くの木造建物の計画が出てくるものと予想されます。

在来軸組工法や大架構のラーメン構造がそれらの構造体として使用されると思います。

いくつかの会社が大架構設計についての講習会や見学会を開催する様になりました。皆様の手元にもその資料が有るのではないでしょうか。

又、伝統構法においては「伝統的構法の設計法作成および性能検証実験検討委員会」より昨年

（次ページへ続く）

（前ページより続く）
の 3 月末にその設計案をまとめて、国交省に提出致しました。今はその法制化を待っている状態です。
昨年の JSCA 九州総会では、その委員長の鈴木祥之先生に概要を話してもらいました。忘れてしまう前に早く法制化してもらいたいものです。
全国の伝統構法設計法に期待しておられる多くの方々から、法制化はまだかとの質問が委員長の所に届いている様に聞いております。今年の早い時期に法制化してもらえたら・・・と期待しています。
木造部会では数年前より在来軸組工法の設計法について、順を追って勉強して、3 冊の参考書を読破してきました。昨年末にその 3 冊目の勉強が終了致しました。今年は、施設・工場の見学会や製材所、林業関係の方々と対話の接点を持ち生の声を聞いて材料の特性を知ってもらいたいと考えています。
現在の木造部会の勉強会は JSCA 会員に限らず、一般の建築士、住宅会社の設計担当、施工業者等、多種の業種の方々に集まってもらってなかなかにぎやかな会となっています。
今年も会員の皆様、及び建築に携わる多くの方々に有益な情報を発信していきたいと思います。御協力の程よろしくお願い致します。

特殊(PC)系部会

特殊(PC)系部会長

オリエンタル白石㈱　　内山　執樹

明けましておめでとうございます。当部会の活動目的は、プレストレストコンクリート（ＰＣ）構造に関わる建築物やプレストレス力を利用した最新の工法などの情報をいち早く会員の皆様や行政に関わる方々、一般市民の方々に提供し、より良い社会資本の形成に役立つことにあります。そしてこの部会活動を通してプレストレストコンクリート構造のより一層の普及をめざすものであります。
さて、当部会では昨年 7 月に福岡市において免震+プレストレストコンクリート造による新築の病院の現場見学会を行いました。本年も PC の良さを視覚的に体験していただく為、できるだけ現場見学会を開催していきたいと思っております。是非出席していただきプレストレスコンクリート構造への理解をより一層深めていただきたいと思っております。
建築現場においては、昨年後半より鉄筋工や型枠大工など職人不足となっております。
会員の皆様、この現状回避の一つの手段として建物のプレキャスト化を考えてはいかがでしょうか？職人不足の解消とともに工期の大幅な短縮も可能です。当部会委員またはＰＣ専業社へお問い合わせください。
本年も特殊（ＰＣ系）部会を宜しくお願い申し上げます。

青年部会

青年部会長

㈱構造FACTORY　　重松　正幸

新年明けましておめでとうございます。

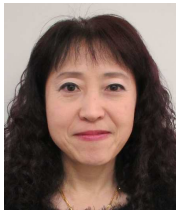
昨年春に青年部会長をお引き受けし、「若手のネットワーク作りと構造の楽しさ共有」の趣旨のもと活動を行ってきました。その活動を通じて、昨年も仲間が増え、九州沖縄総勢で 60 名となりました。本年も、早速 1 月から勉強会を行うなど精力的に活動しています。

昨年は、JSCA 構造デザイン発表会へ青年部から 4 名の発表者を派遣し、私も含めこれまで延べ 7 名が発表してきました。発表者にとってとても良い経験でしたので、機会を与えて頂いた支部の皆様にはこの場をかりてお礼を申し上げたいと思います。

今年は 25 周年イベントのひとつとして、夏頃に JSCA 九州版の構造デザイン発表会を開催する予定です。青年部が中心となり、このイベントを通じて成長し、有意義な時間を過ごせることと良い出会いがあることに期待しています。

今年もよろしくお願いいたします。

なでしこ会



なでしこ部会長

清水建設㈱　　浅田　正子

あけましておめでとうございます。

アベノミクスや東京五輪に加え、耐震改修促進法の改正による業務量の増大が予測される中、長い年末年始休暇を終え、昨年の勢いそのままに新年の業務がスタートしました。

昨年のなでしこ会は、世の中の流れの勢いを借りたかのように、今までになかったような勉強会や交流の活動ができました。建築に限らず、女性の力があちらこちらで表に出てきていることを実感するような年でした。前支部長に作って頂いたなでしこ会が、ようやく歩き始めたような気がしています。

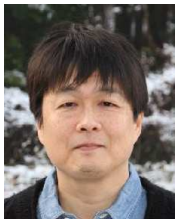
今年どんな活動をするかは、会員の皆さんがどんな思いを持っておられるかで決まるものですが、また面白いことが飛び出してくるのではないかという期待感があります。

あまり期待ばかりが先走るのもプレッシャーの元ですが、その勢いを止めないように進んで行ければと思っています。

ますます会員も増えておりますが、この流れに加わって頂ける方のご参加をお待ちしています。

本年もよろしくお願い致します。

耐震改修促進委員会



耐震改修促進委員長

㈲広岡建築事務所　　松下　淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年１１月に「改正耐震改修促進法」が施行され、旧耐震基準で設計された不特定多数のものが利用する大規模建築物等について、耐震診断の実施と報告の義務が規定されました。その期限が平成２７年１２月３１日までとされており、あと２年しかありません。

法規制の強化・支援拡充などにより義務付け建物を中心に今後急速に診断が進むことが予想されます。耐震診断・改修の円滑な実施に協力するため本部からの要請に応じてＪＳＣＡ九州内にも義務付け建物を対象とした耐震診断実施等に関する相談窓口を設置しました。まだ体制が不十分ですが所有者からの相談に対応していく予定です。

また旧耐震基準で設計された建物にとって診断は耐震化の入口でありますが、耐震性不足の場合は、改修しなければ耐震化とは言えません。耐震改修促進委員会では、今までと同様に耐震改修に関する問題に取り組みます。皆様のご協力を今年もどうぞお願い申し上げます。

地区会報告

北九州地区会幹事

(株)タカシマ建築設計　　高嶌　千年

平成２６年の謹んでご挨拶を申し上げます。
会員の皆様には、JSCA 北九州地区会の活動に多大なご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

日本経済は、アベノミクスの金融財政政策により、大きく好転しデフレ脱却へと経済環境が変わり、公共投資の増加、設備投資の持ち直し、企業業績や個人消費の改善が、可能性から現実化しつつあります。一方、４月から消費税の引き上げの影響から冷え込みも懸念されますが、全体として日本経済が回復に向かう明るい兆しも現れています。
建築関係に携わるものとして、明るい展望が開ける年となることを期待いたします。

さて昨年は、７月に北九州市で九州支部の役員会が開催され、九州の各地域役員と会員との意見交換がなされ、各地域の活発な活動状況の報告に触れ、今後の会員活動に対して意義深い開催となりました。

11 月には、「産・学・官が連携した構造系の講演会（第 4 回)」を開催した処、建築を志す学生、若手技術者等、多数の参加を頂き、大盛況でした。その中で、北九州市おける地震対策について建築指導課よりご講演を頂き、昨年の 11 月 25 日から改正建築物の促進に関する法律が施行され、民間の一定の建物に対して、耐震診断が義務付けられことについての予備知識を得ることができました。今後も継続して行かなければと決意新たにする次第です。

北九州市では、耐震対策に力をいれ安全・安心に暮らせる都市づくりを目指しています。その為には、会員各社の技術を結集して耐震対策に、より積極的に貢献し豊かな社会実現に寄与して行くことが重要な使命と考えております。

ご関係の皆様には、一層のご指導とご支援をお願い申し上げますと共に皆様の益々のご発展を祈念いたします。

佐賀地区会幹事

江口建築設計事務所　　江口　達実

昨年は、政府が掲げる「アベノミクス」の影響で円安・株高をもたらし、経済の上向きが報じられる中で、建設業界にも明るい兆しが見える年であったかに思えます。
しかし、現場では職人・資材不足で工期遅延が発生する事態が起こり、建設コスト上昇にも繋がっている状況です。そうした中で、魅力ある業界（構造設計）を目指し若手育成が急務であることの思いを強くした１年でもありました。
佐賀地区会ではＪＳＣＡ会員 15 名に加え、佐賀県構造家連絡会のメンバーと連携して、講習会の開催並びに各団体への講師派遣などを行ってまいりました。そして、勉強会・現場見学会等を開催し、スキルアップが出来たことに満足しております。
（次ページへ続く）

（前ページより続く）
主な活動内容は下記のとおりです。
① (社)佐賀県建築士事務所協会構造専門委員会委員派遣（5 名）
② (社)佐賀県建築士事務所協会耐震強度検討部会委員派遣（3 名）
③ 振動解析入門セミナー（1 月）
④ 佐賀地区会総会（6 月）
⑤ 木造講演会（6 月）
⑥ 構造技術研修会（9 月）
⑦ 耐震補強現場見学会（12 月）
⑧ 適合性判定員として業務（5 名）

今年は、構造設計者の更なるスキルアップを目的に免震講習会及び特殊工法による耐震補強現場見学会を開催します。また、鉄構工業会青年部と講習会を共同開催し、連携を深める機会を増やしていければと考えております。

長崎地区会幹事

(有)堅設計事務所　　陣川　好高

昨年の活動は 2 ヶ月に 1 回の例会を継続する事を第 1 の目標として活動してきました。例会以外にも講習会の共同開催など、比較的活発な活動ができたと思っております。
長崎地区の会員の方々も耐震診断に加えて、新築物件も増えて忙しい日々が続いています。忙しい中ですが、前年同様例会を確実に開催し、会員同士の交流を行う中で、自己研鑽の意欲や、職能としての責任感を高めていきたいと思っております。
又昨年の九州支部青年部との交流で、若手設計者間の交流の機会を得たので、総会や今年企画されている九州構造デザイン発表会などへも、積極的に参加するように、地区会として活動していきたいと思います。

熊本地区会幹事

(株)岩永組　　赤星　靖

皆様、新年明けましておめでとう御座います。
昨年は、消費税のアップに伴う駆け込み受注で少し慌ただしい秋から冬でありましたが、建設業界では高齢化ならびに人員、特に熟練工の不足が深刻化してきております。若い世代にとって魅力ある業界にしていくことが急務であると実感しております。さて、熊本地区会では、昨年１０月４日に安藤忠雄氏設計の熊本駅在来線ホーム屋根建方施工見学会、１１月１５日には山鹿市新市庁舎ＣＦＴ充填コンクリート施工見学会」を開催、平日の午後にも関わらず他地区の会員の方も含め大勢の方に参加頂きました。本年は耐震診断、補強工事に関する一般向けのセミナーの開催、また若手の育成に力を注ぎたいと考えております。

大分地区会幹事

（株）日構設計　　高橋　正夫

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年来「アベノミクス」の影響で景気も徐々にではありますが、上向き始めているように感じています。また、消費税が８％に上がる影響も受け、木造建物を始め、一般の建築物の新築が増えはじめました。しかしながら、急激な状況の変化に対応できず、材料費の高騰、品不足、施工に携わる職人の不足に悩まされているのが現状です。

また、一般建物の「耐震診断」を促進する国土交通省の指導により、方針が不透明な中、各オーナーからの問い合わせが殺到している状況でもあります。

そのような中で、私達は人々が安心して生活できる建物の耐震安全性を確保する専門家として、今まで以上に技術の研鑽に努力することが必要と考えます。

今後とも、構造技術者の空洞化を防ぐため、若手構造技術者の育成を行うとともにJSCA会員の相互連携を深め、迎えた新しい年が我々にとって素晴らしい一年になる事を心から祈念申し上げます。

宮崎地区会幹事

（有）森本設計　　森本　啓喜

新年明けましておめでとうございます。

昨年は「アベノミクス」に始まり金融緩和・株高・円安効果・消費税増額による駆込み工事の増加、年末には半世紀ぶりの東京オリンピックが決定されて、日本国中が歓喜に包まれて終わった1年でしたが、皆様方はいかような年の始まりでしたか。

幸い、好天に恵まれ南国宮崎はとても暖かいお正月でした。

さて、耐震偽装事件は発覚して8年、確認機関に厳格化・構造計算書の適合性判定など私達、建築構造設計に携わるものとしては非常に厳しい現実にさらされている今日この頃ですが、明るいニュースとしてかっては九州の陸の孤島、高速道路にない県（ある国会議員）と揶揄されたわが県内に3月に宮崎―延岡間、2014年度中には大分市までが全面開通します。

ぜひ、観光がてら宮崎県にもお越し下さい。歓迎しますよ。

また、相変わらずの建築士の失態・耐震偽装・公文書偽造・最近はにせ1級建築士の横行（今年はにせ構造1級、にせ設備1級がでる？）など建築士のモラルの低下は株高と反比例するかのように次から次と発覚し毎年数十名の建築士が免許剥奪などの処分をうけている実態が跡を絶ちません。

〇〇士のなかでも最低クラスではないか。

（地方都市にあっては、設計者同士は仲間内でありにせ建築士はいないと思われる。）

このような時だからこそ、構造設計者は自己研鑽・建築士としての意識向上のためにも各種建築関連団体やJSCAの活動にも積極的に参加し資質の向上に努めなければならないと思い、今年からは若手構造設計者が声を大にして言える地区会活動をしていきたいと考えていますので他県での講習会等で宮崎県の若い技術者を見かけたら御指導鞭撻をお願い致します。

（次ページへ続く）

（前ページより続く）
いずれ、私達から次世代にバトンタッチをするときは、構造設計者は非常に少なくなる恐れがあります。そのような事態にならないようにJSCA老人クラブでも作って、趣味で若手の指導育成・技術の伝達などや職域ずくりを気の置けない仲間とできたらいいな。
　今年もよろしくお願いいたします。

鹿児島地区会幹事

㈱東条設計　　鎌田　道清

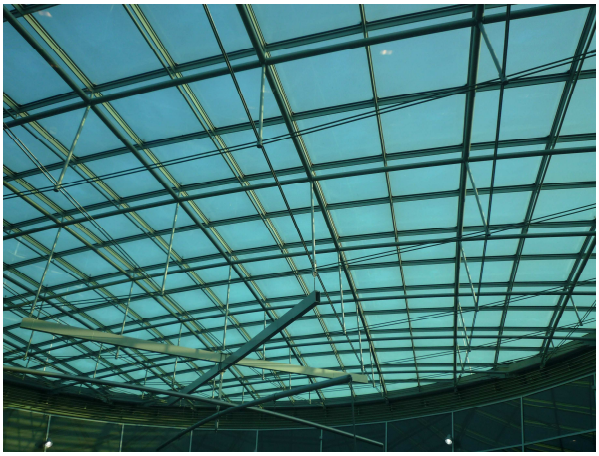
　新年明けましておめでとうございます。
　ｊｓｃａ会員の皆さまにおかれましては、構造設計の分野でご活躍のことと思います。
今年４月から消費税のｕｐ、資材費の高騰、技術者不足等、建設業に携わる者の環境は非常に厳しい情勢の中ですが、今こそ構造設計技術者として、持っている技術を生かし、社会的地位の向上を目指す絶好のチャンスと捉え前向きに行動しようではありませんか。
また耐震改修促進法の改正もあり、既存の建物をどのように補強し存続させていくかも構造技術者として社会的責任を担うことになると思います、それには各人の技術の研鑽だけでなくｊｓｃａの会員として情報・技術の共有を図り社会に貢献できる様皆さまと共に努めて行きたいと思っています。
　今年も宜しくお願い申し上げます。

沖縄地区会幹事

(株)国建　　花城 和雄

　新年、明けましておめでとうございます。
　昨年は、景気拡大への追い風を感じた年でした。アベノミクスと、東京五輪開催決定の経済効果への期待感が風となりました。特に建設関連業界では「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の施行が業務受注増を期待させました。
　「―――法律」の施行は、社会に貢献する職能集団としてのJSCAをアピールする絶好の追い風であることは言うまでもありません。当地区会もその風をしっかりと受け止めることが、本年の課題と考えています。
　当地区会は、昨年の前半こそはあまり活動ができなかったのですが、後半6月以降は講演会等４件、デザイン発表会の見学（7人の旅費支援)、地区内での2回目の同発表会開催等の活動ができました。
　今年は九州構造デザイン発表会で、１作品の発表が目標です。
　今年は午年。馬は走り方で並足、早足、駆足まで、必ず１本以上の足を地に付けて走るそうです。今年も駆け抜ける一年になるでしょうが、しっかりと足を地につけた並足で頑張りたいものです。
　今年も沖縄地区会を宜しくお願いします。

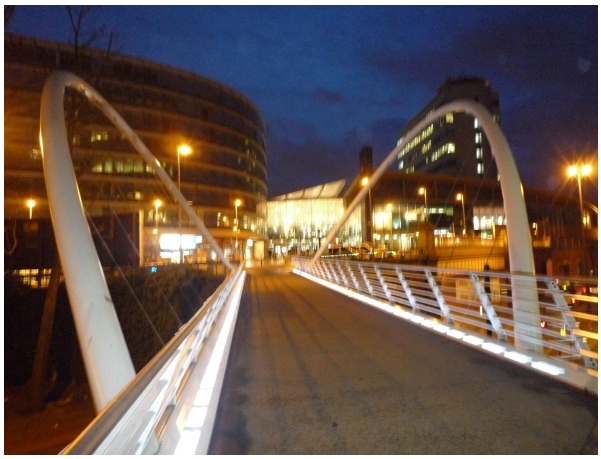
おまけ（編集委員の欧州構造デザイン見聞録）



ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ空港ｱﾄﾘｳﾑの張弦梁屋根

大英博物館ｸﾞﾚｰﾄｺｰﾄ

ｷﾝｸﾞｽ・ｸﾛｽ駅ｺﾝｺｰｽの剛接単層ﾄﾗｽ屋根



ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ駅前のｱｰﾁ吊り歩道橋

ﾏﾄﾞﾘｯﾄﾞ・ﾊﾞﾗﾊｽ空港ﾀｰﾐﾅﾙ 4

ﾏﾄﾞﾘｯﾄﾞ・ｱﾄｰﾁｬ駅の屋根架構

編集後記
今年は JSCA 法人化２５周年です。
５月総会では斎藤公男先生講演。７月役員会では九州構造デザイン発表会が行われます。
九州構造デザイン発表会の発表募集も近く配信されますので、宜しくお願い致します。
（今林、石井、福田　記）